【第一会場:1 階　メインホール】

開会式 （8:25-8:30）

シンポジウム 1: （8:30-9:40）

ドクターカーとドクターヘリの連携:
ドクヘリ運航休止時代をも見据えた地域救急医療体制の再構築を含めて

座長:上田　敬博（鳥取大学医学部附属病院高度救命救急センター）
岩瀬　史明（山梨県立中央病院高度救命救急センター）

S1-1　ドクターヘリ運航休止を見据えた地域救急医療体制の再構築
生越　智文　　（鳥取大学医学部附属病院高度救命救急センター）

S1-2　ドクターヘリ不対応時の地域の救急体制を支えるドクターカー2 台同時出動
吉村　有矢　　（八戸市立市民病院　救命救急センター）

S1-3　ドクターヘリに合わせたドクターカー要請基準の変更とカー基地病院の救急応需率改善がヘリの負担軽減に導く
町田　浩志　　（国立病院機構高崎総合医療センター）

S1-4　ドクターヘリ運航休止時に補完体制を要する地域はどこか
―全国 1,895 地域の地理的解析―
岡　和幸　　（島根大学医学部 Acute Care Surgery 講座）

S1-5　病院前救急医療を支えるドクターヘリ・ドクターカー・地域 DMAT の連携
―大分県の現状と課題―
竹中　隆一（大分大学医学部救急医学/附属病院　高度救命救急センター）

S1-6　ドクターヘリが飛べない日の医療の空白―地上補完の実績と限界から考える地域救急医療体制の再構築
永嶋　太（公立豊岡病院　但馬救命救急センター）

S1-7　ドクターヘリ長期運休が重症救急搬送に与える影響と地域救急医療体制の再構築:和歌山県における後ろ向き観察研究
井上茂亮　（和歌山県立医科大学救急集中治療医学講座）

要望演題 1　(9:40-10:20)

座長:　大友 康裕（東京女子医科大学）
中川 雄公（兵庫県立西宮総合医療センター）

Y-1　プレホスピタルドクター育成の『絶対に譲れない一線』
―当院における段階的教育と独り立ちの判断―
中村　健介（さいたま赤十字病院救急部）

Y-2　プレホスピタルケアがつなぐ救命の連鎖
松田 健一（鳥取大学医学部附属病院　高度救命救急センター）

Y-3　若手が考えるプレホスピタルの人材育成方法と質の担保と課題
亀井 賢人（熊本赤十字病院 救急科/救命救急センター）

Y-4　ドクターカー運用開始に向けた事前準備の取り組みと課題の明確化
立山 有希（東京女子医科大学病院　救命救急センター）

Y-5　院内メディカルコントロール体制下で診療看護師・救急救命士が運用する病院救急車の現場追加派遣体制の活用
町田 浩志（国立病院機構高崎総合医療センター）

要望演題 2　(10:20-10:52)

座長:　清田 和也（さいたま赤十字病院）
河野 元嗣（筑波メディカルセンター病院）

Y-6　災害医療は病院前救急診療から始まる
―災害から学んだドクターカー活動の有用性と課題
阿竹 茂（筑波メディカルセンター病院/救急診療科）

Y-7　大規模災害時における民間救急による搬送の実態と課題
～能登半島地震 621 件の搬送データ解析～
金畑 圭太（前橋赤十字病院　集中治療科・救急科）

Y-8　ドクターカーの現場評価に基づき集中搬送を選択した
カプサイシン曝露多数傷病者事案
島垣 俊理（さいたま赤十字病院　高度救命救急センター）

Y-9　病院前情報の伝送から現場診療支援と院内外傷診療体制の起動へ
―CIC を核とした外傷診療の意思決定―
田中 航　（島根大学医学部附属病院高度外傷センター
Acute Care Surgery 講座）

教育ミニセミナー　(11:00-11:20)

座長:　坂本　哲也（公立昭和病院）

鎮痛を「病院まで待たせない」 -病院前救急診療における区域麻酔の現在地と展望-

演者:　一番ヶ瀬　博（鳥取大学医学部附属病院　高度救命救急センター）

共催セミナー　(11:20-12:20)

「搬送環境のアップデート ～ドクターカー・病院救急車における可能性と挑戦～

座長:横堀 將司（日本医科大学大学院医学研究科 救急医学分野 教授）

① ドクターカーや医療搬送を取り巻く環境変化と今後の展望

演者:加藤 渚（東京科学大学病院 救命救急センター主任/救急救命士統括）

② 病院救急車の更新とクラウドファンディングの実際

演者:田村 智（北里大学メディカルセンター 救急科 副部長）

共催:日本ストライカー株式会社

ランチョンセミナー1　(12:30-13:30)

「病院前救急診療におけるモニタリングの重要性」

座長:上田　敬博（鳥取大学医学部附属病院高度救命救急センター）

演者:石田 亮介（島根県立中央病院 救命救急科部長）

渡部 広明（島根大学医学部附属病院 Acute Care Surgery 講座教授）

共催:フクダ電子株式会社

特別企画　(13:40-15:00)

「Prehospital から Out of Hospital へ:広がる現場医療の可能性」

座長:　奥寺 敬（中部国際医療センター）

横堀 將司（日本医科大学）

SS-1　松本サリン事件 1994 におけるドクターカー:今日的視点からの再評価

ー良かった事、良くなかった事ー

奥寺 敬 （中部国際医療センター救命救急センター長・集中治療部長/国立大学法人富山大学名誉教授）

SS-2　日本初の小児ドクターカーシステム運用 10 年の軌跡

山上 雄司（兵庫県立尼崎総合医療センター 小児救急集中治療科）

SS-3　ドクターカーと地域 DMAT をいかに連携させるか

―クレーン崩落事故から考える共通状況認識の重要性―

井上 潤一（日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急科）

SS-4　ドクターカーにおける病院前輸血導入後の運用実績と課題
宮崎 敬太（奈良県立医科大学　救急医学/高度救命救急センター）

SS-5　島嶼エリアにおける国民保護の取り組み
～沖縄県先島諸島エリアにおける国民保護計画から～
米盛 輝武（社会医療法人仁愛会 浦添総合病院 救命救急センター）

SS-6　大規模災害時の陸路搬送の戦略
―令和 6 年能登半島地震における搬送調整の実際から―
中村 光伸（前橋赤十字病院　集中治療科・救急科）

【第二会場:1 階　イベントホール】

シンポジウム関連演題（8:30-8:54）

座長:　　小林　辰輔（会津中央病院）
　　栩木　愛登（筑波メディカルセンター病院）

SR-1　病院救急救命士がつなぐドクターカーと救急医療の現場
渡部　圭介（医療法人医仁会さくら総合病院）

SR-2　ドクターカー診療における病院救命士の役割は？
～症例を通じて病院救命士の役割を再度考える～
腹子　歩夢（太田西ノ内病院　重症外傷センター/救急救命センター）

SR-3　新卒採用で築いた岡大院内救命士体制の軌跡
～多職種連携が拓く院内救命士とドクターカー運用の実装報告～
上田　浩平（岡山大学病院　高度救命救急センター）

シンポジウム 2:（8:55-10:05）

「ドクターカー×病院救命士:救急医療を進化させる最強タッグ」

座長:　加藤　渚（東京科学大学病院　救命救急センター）
　　田邉　晴山（救急救命東京研修所）

S2-1　津市における救急搬送困難事案対策と HWS 救命士が推進する消防 AVM 搭載ドクターカー実装計画
小田　幸輝　（三重大学医学部附属病院高度救命救急・総合集中治療センター/津市消防本部）

S2-2　ドクターカーを「動かす」から「創る」へ
―病院救急救命士が担う運用・教育・経営支援―
沼田　浩人（日本医科大学多摩永山病院）

S2-3　「運ぶ」から「つなぐ」へ　―病院救急救命士による病院救急車運用と消防救急資源の適正利用―
菅野　弘明（一般財団法人　脳神経疾患研究所　附属　総合南東北病院）

S2-4　院外心停止に出動したドクターカーにおける救急救命士同乗と病院前での薬剤投与の関連
玉田　隼己（八戸市立市民病院　救命救急センター）

S2-5　院外心停止に出動したドクターカーにおける救急救命士同乗と病院前 ROSC の関連:単施設後ろ向きコホート研究
堤　俊太（八戸市立市民病院　救命救急センター）

一般演題 7　病院救急救命士（10:05-10:47）

座長:　橋本 雄太郎（香川大学）
岸田 全人（埼玉医科大学国際医療センター）

O7-1　当院での転院搬送業務におけるタスクシフトに関する検証
福田 健斗（社会医療法人 陽明会 小波瀬病院 災害医療対策室）

O7-2　病院救急救命士による下り搬送業務の運用について
今安 弘樹（済生会滋賀県病院 救急災害業務室）

O7-3　ドクターカーにおける救急救命士の有用性
飯島 甫（埼玉医科大学国際医療センター）

O7-4　統合新病院を見据えた病院救急救命士の院外活動
西村 勇輝（市立伊丹病院 救急科）

O7-5　病院内救急救命士の増員がドクターカー業務に与える影響
―1 人体制と 2 人体制の比較から―
八木澤 若菜（独立行政法人 国立病院機構 災害医療センター）

O7-6　ドクターカー運用開始 1 か月に経験した吐血症例の振り返り
―初期対応と院内連携の課題―
山本 柊平（東京女子医科大学病院 救命救急センター）

一般演題 8　広域連携（10:50-11:25）

座長:　岡 和幸（島根大学医学部高度外傷センター）
沼田 浩人（日本医科大学多摩永山病院救命救急科）

O8-1　ワークステーション型ドクターカー出動の有無が院外心停止症例の転帰に与える影響
二瓶 叶大（川口市立医療センター 日本医科大学 救急医学）

O8-2　当院におけるドクターカー広域体制の構築と初期活動実績
北岡 広大（県立広島病院 救命救急センター・救急科）

O8-3　ドクターカーにおける消防本部の地域特性による検討と課題
岸田 全人（埼玉医科大学国際医療センター）

O8-4　ドクターヘリ応需の可否と現場要請された外傷患者の臨床転帰との関連について
東雲 崇之（宮崎大学医学部附属病院 高度救命救急センター）

O8-5　高度救命救急センターが 2 施設存在する中核市にドクターカーは必要か？
2 年間の実績を基に役割と課題の検討
中島 太郎（市立大津市民病院 救急診療科）

ランチョンセミナー2　(12:30-13:30)

「救急・病院前診療における血液検査の進化」

座長:吉村　有矢（八戸市立市民病院　救命救急センター）

演者:黒田　周平（済生会熊本病院　循環器内科）

木村　拓哉（大垣市民病院　救命救急センター）

共催:アボットジャパン合同会社

パネルディスカッション　(13:40-15:00)

「ドクターカーと消防との連携のコツ」

座長:　今　明秀（八戸市立市民病院）

林　靖之（大阪府済生会千里病院）

P-1　消防が要請したいと思えるドクターカーを目指して

渡部　圭介（医療法人医仁会さくら総合病院）

P-2　地域の消防とともに成長してきた当院ドクターカーの 10 年間

三戸　正人（ハートライフ病院）

P-3　ドクターカーと消防機関の連携強化に向けた HWS 救命士のリエゾン機能

中山　大介（三重大学医学部附属病院/鈴鹿市消防本部）

P-4　要請基準を変えるだけではドクターカーは呼ばれない

～消防とのコミュニケーションと運用マネージメント～

大滝　達也（旭川医科大学病院救命救急センター）

P-5　ドクターカーの運用には医療と消防の共通理解の構築が重要である

栩木　愛登（筑波メディカルセンター病院　救急診療科）

P-6　「呼んでもらえる」ドクターカーを目指して

:要請基準の改訂と消防との事例検証会

太田黒　崇伸（長崎大学病院）

P-7　要請して終わりにしない

―消防とドクターカーをつなぐ「考え方」の共有―

寺島　良（済生会宇都宮病院　救急・集中治療科）

【第三会場:2 階　研修室 1,2】

一般演題 1　検査・教育 (8:30-8:51)

座長:　吉原　秀明（鹿児島市立病院）
霧生　信明（防衛医科大学校病院　外傷熱傷事態対処医療センター）

O1-1　高度肥満患者のⅡ型呼吸不全に対し携帯型血液ガス分析装置が病院前診療に有用であった一例
佐久嶋　優衣（東京都立多摩総合医療センター救命・集中治療科）

O1-2　高齢外傷患者における病院前迅速 fibrinogen 測定の有用性
高倉　竜彦（奈良県立医科大学付属病院　高度救命救急センター）

O1-3　救急科専門研修における消防署研修の意義
鄭 ダニエル（熊本赤十字病院）

一般演題 2　高齢者・在宅対応 (8:55-9:16)

座長:　加藤　宏（国士舘大学）
世良　俊樹（県立広島病院　救命救急センター）

O2-1　在宅医療における緊急往診時の疾患分類と治療指針
照沼　秀也（いばらき診療所ひたち）

O2-2　DOAC 内服頭部外傷患者搬送時における救急救命士の認識と情報収集・伝達の実態
大塚　翔太（埼玉医科大学国際医療センター　救命救急センター外来）

O2-3　在宅診療における緊急対応の現状と課題
篠　美和（医療法人社団守成会　広瀬病院　在宅診療部）

一般演題 3　現場管理 (9:20-10:02)

座長:　中村　光伸（前橋赤十字病院）
田口　健蔵（小波瀬病院）

O3-1　一酸化炭素中毒に対する早期挿管・100%酸素陽圧換気により CO 濃度の速やかな低下を認めた 一例
渡名喜　大知（社会医療法人かりゆし会　ハートライフ病院）

O3-2　ドクターカー診療で現場活動における安全管理
山田　哲久（飯塚病院　救急科）

O3-3　高速道路上事案に対するドクターカー活動の一例
市川　実里（埼玉医科大学国際医療センター）

O3-4　外傷ドクターカーにおける安全管理標準化の取り組み

―病院救急救命士の視点から見た工程別課題の整理―
松岡 冴（島根大学医学部附属病院）

O3-5 ドクターカー内分娩において患者配置を工夫した 1 例
―介助空間の確保と搬送安全上の課題―
三代 魁生（島根大学医学部附属病院 高度外傷センター）

O3-6 都心部の鉄道施設におけるドクターカーでの医療活動と搬送の課題
原島 瑞葵（東京科学大学病院）

一般演題 4 心停止/PCPS（10:05-10:33）

座長: 吉村 有矢（八戸市立市民病院）
永嶋 太（公立豊岡病院 但馬救命救急センター）

O4-1 VA-ECMO 導入後に妊娠が判明した、若年女性の院外心停止の一例
嘉陽 安尚（大阪府済生会千里病院）

O4-2 成人非外傷性院外心停止におけるドクターカー要請時点と医療チーム接触時間・病院到着時 ROSC との関連
席 望（さいたま赤十字病院）

O4-3 病院救急救命士が行う救急車型ドクターカーを用いた ECMO 装着患者の転院搬送における取り組み
豊田 英城（大阪大学医学部附属病院医療技術部/高度救命救急センター）

O4-4 現場死亡確認に至った 2 症例から考えるドクターカーの役割
小室 奈央（埼玉医科大学国際医療センター）

一般演題 5 外傷・多数傷病者事案（10:35-11:10）

座長: 井上 潤一（日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター）
小林 誠人（大阪府済生会千里病院千里救命救急センター/外傷・急性期外科センター）

O5-1 プレホスピタルで複数の小児患者を含む多数傷病対応で小児救命救急センターへの搬送集約が奏功した一例
亀井 賢人（熊本赤十字病院 救急科/救命救急センター）

O5-2 令和 8 年熊本地震関連ガス爆発事故におけるドクターカー活動
島 伶弥（熊本赤十字病院 病院前救急診療科）

O5-3 ドクターカーとドクターヘリの連携による搬送戦略
―傷病者に応じた搬送手段の選択―
寺島 美奈子（鳥取大学医学部付属病院 高度救命救急センター）

O5-4 病院救命士と消防救助隊の連携により院内で救助と診療を並行した上肢挟圧外傷の 1 例
岩田 航右（さいたま赤十字病院救急科）

O5-5　速やかな病院前医療・連携が社会復帰につながった、
大腿部杙創（工業用ドリル）による心肺停止の一救命例
霧生 信明（防衛医科大学校病院 外傷・熱傷・事態対処医療センター）

一般演題 6 グラウンドナース（11:10-11:59）

座長: 野村 昌夫（川西市立総合医療センター）
大川 直美（さいたま赤十字病院）

O6-1　急性大動脈解離患者の病態変化を見逃さないための継続的な再評価
～疼痛変化に着目した看護師の役割～
長谷川 瑞樹（済生会滋賀県病院）

O6-2　プレホスピタルナース育成プログラムの再改定と運用評価
-選考プロセスの標準化と多面的評価指標の実践報告-
滝沢 悟（前橋赤十字病院 看護部 高度救命救急センター外来）

O6-3　病院前診療における心理的安全性が看護師の主体的行動に与えた影響
～外傷 CPA 症例を経験して～
河村 真理恵（済生会滋賀県病院 救急外来）

O6-4　当院ドクターカーナース教育の内容と方法の検討
小室 勇人（埼玉医科大学 国際医療センター 救命救急センター外来）

O6-5　病院前診療開始に伴うグラウンドナースの役割構築
―A 病院における活動開始時の実践報告―
中元 宏美（東京女子医科大学病院）

O6-6　グラウンドナースのパニックコントロールで気管挿管を回避した
呼吸困難症例
飯塚 繁法 （筑波メディカルセンター病院）

O6-7　気管断裂症例から考える救急看護
―観察から予測へ、現場で求められる先読みと連携―
久 宣実（徳島赤十字病院）

ランチョンセミナー3 （12:30-13:30）

「病院前救急診療における血液ガス分析～検査した方がいいですか？～」
座長:清水 敬樹（東京都立多摩総合医療センター 救命・集中治療科 部長）
演者:光銭 大裕（東京都立多摩総合医療センター救命集中治療科 医長）
「ハンドヘルド型血液ガス分析装置エポックの特徴 ～測定性能から使用環境まで～」
演者:濱田 宏輝（POC 事業部 マーケティンググループ 学術担当）
共催:シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社